

2024 年度 NGO 論 最終レポート

以下の問いに回答してください。

回答用紙にはQ、設問番号などを記入し、どの問いへの回答なのか分かるように記載してください。

Q1：次の（ ）に当てはまる言葉をキーワード群から選び、記号で回答しなさい。各記号は1回のみ使用することができます。回答の際には回答番号と記号を順に記すようにしてください。

例) ① ア ② ウ ③ オ …

- 1960年代は近代化を目指した国家のマクロ経済成長を目指した開発支援が主流となっていた。そこで国家の発展のプロセスは単線的であるという（①イ）が信じられていた。
- しかし先進国と発展途上国の支配-従属の関係性が資源搾取や発展途上国をいつまでも「低開発」の状態に留める原因となっているとする（②ダ）が議論されるようになり、内発的发展論などオルタナティブな開発が提起された。
- 国民への教育や保健医療サービスの提供、住居の確保など、生きていく上でのニーズを（③セ）と呼ぶが、1980年代債務不履行に陥った国に対して世界銀行やIMFによって行われた（④ウ）は、マクロ経済の立て直しを優先し、こうした社会保障制度の大幅な減額を政府に求めた。
- 1990年、国連開発計画は（⑤ト）という概念を提唱し、以降「Human Development Report」を発刊するようになった。これは従来の開発が国単位のマクロ経済指標（GDPなど）で評価されていたことに対して、「開発の基本的な目標は人々の選択肢を拡大すること」にあるとする考え方にに基づき、経済成長だけでカバーされない側面に目を向けるようになった。
- 国連は2000年に「国連ミレニアム宣言」を採択し、（⑥イ）を掲げた。2030年を目標年にしたSDGs（持続可能な開発目標）に対して、この（⑥）は途上国の開発課題に焦点が向けられていた。
- アマルティア・センは貧困を『（⑦ト）を実現する権利がはく奪されている状態』と考え、ケイバビリティアプローチで貧困を捉えようとした。
- 従来の問題解決アプローチに対して、未来の理想的な状態・ゴールを設定し、そこに至る方策を検討する（⑧ト）アプローチがまちづくりや社会課題の解決に用いられるようになってきている。（⑧）に対して問題解決アプローチは（⑨ト）アプローチとも言われる。
- SDGsの17番目のゴールは（⑩ト）であり、多様なステークホルダー（関係者）が協働して課題に取り組むことを目指している。

キーワード群

- | | | | | |
|------------------|-------------|-------------|-----------|-------|
| ア社会開発 | ①単線的発展論 | ②構造調整政策 | ①近代化論 | ④潜在能力 |
| カマルチ・ステークホルダー | ④テイクオフ理論 | ②新国際経済秩序 | ⑦顔の見える援助 | |
| コトリクルダウン仮説 | ④フォアキャスティング | ②ミレニアム開発目標 | ②デフォルト | |
| セベーシック・ヒューマン・ニーズ | ⑦世界銀行 | ②従属論 | ④人間の安全保障 | |
| ツ経済的 | ⑦人間開発 | ①バックキャスティング | ④パートナーシップ | |

Q2 : Day2、Day3 (8月7日、8日) であなたのグループが取り組んだテーマについて、以下の項目について説明しなさい。

- 1) 取り組んだテーマ
- 2) そのテーマにおける関係者 (影響を与える、または影響を受けるアクター)
- 3) あなたのグループがたどり着いた解決策や取り組みと、その解決策や取り組みにたどり着いた考察の経緯

Q3 : これからの NPO の役割と可能性について、講義での議論も参考に、

- ①社会・社会環境の変化、②NPO の特徴・強みの観点から、あなたの意見を記述しなさい。